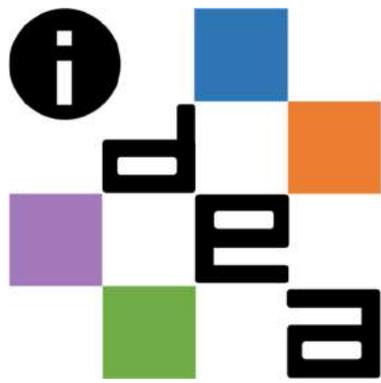


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア



2019
3月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|---------------------------|
| 1 | 二言三言 | 「東山和紙」800年の歴史とその魅力について |
| 3 | 団体紹介 | 菅公夫人の墓史跡保存会（東山） |
| 4 | 地域紹介 | 一関 里が丘民区自治会（一関） |
| 5 | 企業紹介 | 株式会社八木澤商店 大原工場（大東） |
| 6 | センターの〇〇 | センターの自由研究 市内の気になる巨石～大猊鼻岩～ |

フタコ×ミコ 第57回 二言三言 128/117,296

とうざん 「東山和紙」800年の歴史とその魅力について

対談者 東山和紙の紙漉き職人 鈴木 英一 さん

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

東山町長坂の北山谷集落^{きたやまや}で「東山和紙」の伝統を受け継ぐ鈴木英一さんに、地域に伝わる紙漉きの歴史や和紙づくりの工程、和紙の魅力などについてお伺いしました。

東山町に伝わる伝統の手漉き和紙

【小野寺】鈴木さんが紙漉きを始めたきっかけは何だったのでしょうか？



東山和紙の紙漉き職人
鈴木英一さん

【鈴木】私の家では先祖代々紙漉きをしており、知る限りでは明治時代以前から行われていたようです。そんな中、私が34歳の時に親父から「自分はまだ歳だから、あとはお前（鈴木さん）がやれ」と言われ、紙漉きを継ぎました。子どもの頃から親父の紙漉きを見ていて「だいたいこうすればいいのか」と頭では思っていました。実際にやってみると難しく。それから今に至るまでの43年、紙漉きをしています。

【小野寺】当時、紙漉きをされている方は多かったですか？

【鈴木】ええ。この集落では、昭和30年代初期まで12~13軒の家で紙漉きをしていましたが、今は2軒にまで減ってしまいました。3村が合併して東山町になった当初は280軒ほど紙漉きをしていた家がありましたね。田河津には昭和40年代まで多くありましたし、長坂の里前とか、松川の野平にもありました。ですが、こぞって紙漉きをしていたのは、やはりここですね。

【小野寺】なぜ紙漉きをする家が減ってしまったのでしょうか。

【鈴木】軒数が減った理由は主に2つあります。当時の主な仕事は家の手伝いと農業で、農閑期の冬に紙漉きをしていたのですが、町内にセメント工場が誘致されると多くの方が紙漉きを辞め、そこで働き始めたこと。もう一つは洋風の家が増えてきたことによる和紙の需要減です。昔は障子や畳の部屋がある家ばかりでしたが、それが段々と減り、障子紙が売れなくなっていったんですね。

「東山和紙」ができるまで

【小野寺】そもそも和紙はどのようにして作っているのですか？

【鈴木】和紙の材料は主に「楮（こうぞ）」と「トロロアオイ」（通称「ニレ」）の2つです。楮は私の家で自家栽培していて、毎年春に刈り取ります。切った場所から芽が出て、また1年かけて育ちます。トロロアオイは、紙の厚さを均一にするための粘液が根から出るのでそれを使います。昔はほかの家や市場などで材料を仕入れていた時期もありましたが、なにせ和紙が売れなくなってしまったので、今では自家栽培の分だけで確保しています。

工程としては、まず切ってきた楮の表面の黒皮を包丁で剥いで、乾燥させます。使う時には釜で煮て、水に浸し、また煮てあく抜きをします。その時に小さなゴミを1つひとつ取り除いて、それを繊維の状態になるまで機械で叩いてほぐします。その繊維とトロロアオイの粘液を混ぜて、紙を漉きます。



背丈が3m以上に伸びた楮（左）とトロロアオイの根（右）



①漉き舟に水と原料をいれ十分にかき混ぜ、②次にトロアオイの粘液を漉して投入し馴染ませると、繊維同士が分離し均一に分散する。



③すげたを使い原料をすくい上げ左右にゆり動かして紙にし、④漉き上げた順に1枚1枚重ねていきます。

【小野寺】紙を漉く段階になるまでにはすごく時間と手間がかかっているんですね。

【鈴木】実はそうなんです。さらに機械がない昔は全部手作業でした。私が子どもの頃は、夕方になると、次の日の紙漉きに必要な材料を棒で2時間ぐらい叩く「紙草打ち」をさせられたものです。周りの家も皆そうでした。夕方になると「トントントン」という紙草打ちの音が聞こえ始め、「ほら、隣の家でも始まったぞ」と。

今は1日に100枚~120枚しか漉きませんが、昔は障子紙なら1日に500枚も漉きましたよ。

【小野寺】「紙漉きは冬に行く」と話しておりましたが、夏はできないのでしょうか？

【鈴木】夏でもできないことはありませんが、夏は生産性が下がりますし、紙の品質も落ちてしまうんです。水温が少し上がるだけで、トロアオイの粘り気が弱まりますし、漉ける枚数も半減してしまうんです。

春先など暖かくなってから漉く紙は、立派な紙ではなく襖の下張りに張るような品質の低い紙なんです。昔はそれも売れましたが、今はほとんど売れません。昔は田植えが終わった頃の6月に漉いていた時期もありましたが、今は春も夏前も漉くことはなくなりましたね。

「丈夫で長持ち」が和紙の強み

【小野寺】鈴木さんが漉いた和紙はどんなところに納品されるんですか？

【鈴木】狛鼻溪の「紙漉き館」では観光客向けに紙漉き体験を行っていますが、私の和紙はここ10年ほど中尊寺で使っていており、毎年一定量の色紙の注文を受けています。色紙の厚さにするには、およそ4枚の紙を重ねて乾燥させて作ります。完成後、一定期間寝かせた紙の方が筆を乗せやすいということで、

私は2年寝かせた物を納品しています。

【小野寺】こだわりがあるんですね。

【鈴木】ほかには、最近ですと一関市田村町の「旧沼田家住宅」の障子紙や、染め物屋さんの販売商品に付ける帯、一閑張りの素材にも使っていただいています。

コピー用紙のような機械刷りの西洋紙は、木の芯を砕いて作っており、和紙は木の皮の部分だけを使うので、根本的に材料が違います。西洋紙は薬品で処理されており約100年は持ちます。和紙は繊維を使っているので、さらに長い期間持つんです。現存する900年前の藤原文化の巻物にも和紙が使われているんですよ。

また、東山和紙は未晒^{みざら}しの原料なので日の光に当たると時間と共に白くなっていくので、年数が経っても文字がきれいに見えます。障子紙でも10年は持ちますよ。なので、「東山和紙は丈夫で長持ち」だと言っているんです。



新農村建設事業で昭和35年に建てられた「山谷和紙共同作業所」

【小野寺】鈴木さんの家で代々受け継いできた紙漉きを、次に継ぐ人はいるんですか？

【鈴木】息子はおりますが、今のところ継ぐ予定はありません。紙漉きで家族を養えれば良いのですが、なかなかそうもいきませんし。

【小野寺】でも、技術的なものは受け継いでいく人が必要ですよ。

【鈴木】それで今、3年がかりで職人の養成講座を行っており、そこで紙漉きを習得してきた方々がいるんです。個々で紙漉きの道具を揃えたり原料を確保するのは大変かもしれませんが、上手くいけばきっと将来も伝統的に繋がっていくのではないかと期待しています。

鈴木英一さん

住所：一関市東山町長坂 電話：0191-47-3454

団体 紹介



会長 細川昇さん

～基本情報～

- ◆会長： 細川 昇さん
- ◆住所：〒029-0301
一関市東山町田河津字竹沢 316
- ◆電話：0191-47-3895

「 東風（こち）吹かば 匂い起こせよ 梅の花 主なしとて 春な忘れそ 」

菅公夫人と竹沢集落

東山町田河津に「菅公夫人の墓」と呼ばれる史跡を守っている、竹沢集落を中心とした保存会があります。

菅原道真公(菅公)は学問の神様として有名ですが、その奥様が「菅公夫人」です。右大臣だった菅公が謀略により大宰府に左遷された際、夫人は従臣を伴い、3人の子と胆沢郡へ落ち延びました。菅公は左遷後3年で亡くなり、それを伝え聞いた夫人も悲しみから病が高じ、菅公の死後3年、906年(延喜6年)に死去。夫人の墓は胆沢にほど近い山里の竹沢に置かれ、従臣菅原氏の子孫らに守られてきたといわれます。

時は移り平成3年。この年、竹沢集落振興会(自治会)の会長に就任した細川昇さんは、夫人の墓のお世話を高齢の地主別当、菅原さん(故人)が一手に行っている姿に、「大変そうだし地域で何とか支援できないものか」と考え、竹沢集落全体で菅公夫人の墓の維持管理を支援する保存会の設立を提案。かくして竹沢集落全戸が加入する形での保存会が結成され、ふるさと創生事業基金などを活用し環境整備も実施しました。

大宰府とのご縁と1100年祭

数年後、大きな転機が訪れます。とあるご縁により、菅公の霊を祀る太宰府天満宮の第39代宮司が菅公夫人の墓の存在を知ったことから、平成6年に大宰府から門外不出の梅の木3本(「東風吹かば～」の句に代表されるように菅公は梅を愛したことでも知られる)を菅公夫人の墓前に自ら植樹えがらされました。同年鎌倉荏柄天満社、平成9年に京都北野天満宮と、日本を代表する三天神から梅の木を贈られた意義は大きく、平成7年に菅公夫人の墓が史跡として当時の東山町文化財指定を受けたことと併せ、保存会を取り巻く輪は竹沢集落の枠を超え、広がりを見せていくこととなります。

さらに夫人没後1100年にあたる平成17年には、大規模な整備事業と1100年祭を実施。その費用捻出にあたっては、保存会を中心に地元を駆け回りながら、田河津全戸のほか、東山全域及び近隣の企業や有力者にも趣意書を回し、様々な方から(大宰府からも)協力を得たそうです。一番の思い出を「1100年祭に大宰府天満宮39代・40代の宮司が親子で訪れ神事を齋行されたこと」と懐かしそうに振り返る細川さん。この1100年祭にはなんと800人余りの人々が駆けつけたのだとか。

持続可能な活動で後世への伝承を

現在の主な活動としては、毎年命日である9月12日前後に神事を実施。子ども達は白装束をまとい、野菜や穀物を持ち献膳行列に参加。大人達は神事後、直会なおで懇談を行います。また、補助金なども上手く活用しつつ、環境整備でも清掃を祝寿会(老人ク)、剪定や看板・柵の設置は実年会(50～60代)や青年会、父母の会、花壇は婦人部、と役割分担するなど、老若男女が少しずつ関われる工夫をしています。そこには会長歴が四半世紀越えて御年86歳という細川さんの「無理に事業を拡大せず負担を分担することで持続可能な活動にし、この活動を後世に伝承していけたら」という思いがあり、そのために「世代交代や活動の周知、自主的な活動参加など」という期待も持っているのです。

「梅の花よ、春風が吹いたら匂いをよこしてくれ。主人が不在でも春を忘れるな」そう詠み残した菅公。

その夫人の墓を守るこの地に今年も梅が咲き、芳しい匂いを放つ季節がきます。歴史に想いを馳せに、ぜひ一度訪ねてみませんか？



神事で行われる献膳行列の様子

地域
紹介

自治会長 辻山慶治さん

～基本情報～

- ◆自治会長：辻山 慶治 さん（5期10年目）
- ◆60世帯200人が暮らす里が丘民区自治会は、平成32年で結成50年を迎えます。造成地域のため他区よりも比較的新しく、近くには一関遊水地堤防を眺められる場所があります。

日頃からの“コミュニケーション”が実を結ぶ

先輩から後輩へ

取材直前、「今回初めて（地域紹介の）記事を書かせていただきます」と話す新米スタッフに「最初というのは比較するものがないから自由に書いていい」と、優しい言葉をかけてくれたのは、里が丘民区自治会（以下「里が丘」）会長の辻山慶治さん。辻山さんは大手企業を退職後、中里地区で活動していた福祉組織の事務局長を務めていました。その間に当時の里が丘の自治会長が高齢となり、「各世帯を歩いて回ったり、地域のことを考えたりするのは若者が行き、先輩方はその相談役に」という思いから自治会長を継承し、5期10年目となりました。

自治会長としての10年間を振り返ってもらくと、「上手くいくことばかりではないけど、若い人や先輩達の支えがあったから頑張れた。そして何より、中里にある13行政区の区長達が“助け合い”“支え合い”を大切にしてきたからこそここまでやってこられた」そう話す辻山さんに、民区の枠を超えた連携や支え合いによる地域運営のあり方についてお話を伺いました。

民区の枠を越えた“絆”

中里では毎年、行政区対抗の中里地区民運動会を開催しています。住民同士の交流や民区の絆を深める場として盛り上がる運動会ですが、ある民区の区長が「住民と上手くコミュニケーションがとれていないから、選手を出せない」と悩んでいる時期があったそうです。そんな時に辻山さんをはじめとするほかの民区の区長達が激励会を開催。悩んでいた区長を励まし、みんなが「どうしたら選手を出せるか」と考え合いました。その結果、「出場できる競技だけ参加し、足りないところは他区から選手を借りる」という対応策を見つけ出

し、全行政区が運動会に参加。「あそこの民区は参加できない」で終わりではなく、“どうしたら参加できるか”を考える方が“やれない”と否定するよりも楽しく仕事ができる」と話す辻山さんからは、住民同士のコミュニケーションだけではなく、区長同士のコミュニケーションも大切にしている様子が伺えます。お互いの苦労や悩みを共有することにより、区長という“仲間”との絆を深めているようです。

自分の地域に合ったやり方を考えることが大事

里が丘では、自治会と中里まちづくり協議会（以下「協議会」）との関係性を上手く構築している、ある「方針」があります。取材をした日、里が丘公民館では、協議会主催の「中里地区行政区対抗カラオケ大会」に向けた練習が行われていました。各区内の予選を勝ち進んだ者が民区代表選手となり、大会当日はその選手を民区住民が応援しに行きます。ですが、このような新しい企画を協議会が提案すると、民区によっては「開催日が民区行事と被ってしまう」「区内で議論する時間がない」といった意見が出ることもあるそうです。

そこで里が丘ではそのような時にもすぐに対応できるよう、“中里まちづくり協議会に協力しよう”を活動方針にしています。協議会事業への参加を促すことで行事の効率化を図り、仲間も増やしやすいためです。

狭域（民区・自治会）・広域（中里地区）の両方の視点から考えることで、運営がしやすくなる。そんなヒントをいただいた取材でした。



カラオケ大会に向け、練習に励む住民

企業紹介



工場長 吉田 智雄さん

～基本情報～

- ◆代表取締役：河野 通洋^{みちひろ}さん
- ◆住所：〒029-0711（大原工場）
一関市大東町大原字台 103-2
- ◆電話：0192-55-3261（本社）
- ◆FAX：0192-55-3262（本社）
- ◆URL：<http://www.yagisawa-s.co.jp>

いちのせきは、醤油づくりの第二のふるさと

東日本大震災の津波が老舗を襲う

株式会社八木澤商店は、陸前高田市に本社を置く老舗醤油製造販売店で、醤油のほかに味噌やドレッシング、スープなど120種類の調味料の製造販売を行っています。文化4年（1807年）に創業し、昭和35年から現在の名称となりました。

築190年の蔵の中で木桶を用い、伝統的な製法で醤油づくりを手掛けていた同社でしたが、平成23年3月に発生した東日本大震災で一変します。

「津波で醤油も蔵も、店舗や工場すべて流されました」と語るのは、大原工場工場長の吉田智雄さん。「あまりの衝撃に言葉を失いましたが、震災20日後には物資搬送ボランティアを行い、代表取締役からは再建決意表明が出され、従業員一丸となって地域の復興と八木澤商店復活に全力を注いできました」と当時を振り返ります。

仮事務所からの再出発

震災から1か月ほど経過した頃からは、営業拠点を一関市大東町摺沢地区に移し、県内外の醸造蔵に製造を委託、商品の販売を開始しました。

「一関商工会議所大東支所から支援をいただき、元縫製工場を当社の本社仮事務所とし再出発しました。地元から一山越えた大東町には感謝の気持ちでいっぱい。陸前高田市からはバス通いだったので、この町にはどんな店があるのか、災害があったときの避難場所や経路がわからなかったため、商工会議所の職員さんに町を案内していただき、みんなで散策をしたこともあります」と吉田さんは語ります。

震災年の12月には、一関市花泉町につゆ・たれ工場を借り、醤油加工品の製造を開始しました。小さな釜で何度も何度も仕込み、製造が自分たちの手で再開できた喜びをかみしめていたそうです。

旧大原小学校跡地をメイン工場として利用

震災翌年の10月からは、本社を陸前高田市に戻し、製造工場を一関市大東町大原地区に構えます。「今、工場が建っている場所は、旧大原小学校の校庭やプールがあった所です。住民の方々も快く受け入れてくださり、励ましの言葉がとても温かく嬉しかったというのをよく覚えています。（工場勤務の）従業員は、陸前高田市と大東町内の方で半々くらい。大原地区の農家さんには、醤油の原料となっている大豆を契約栽培していただいています。地域の人と協力して伝統の途絶えない醤油づくりを今後も続けていきたいです」と吉田さん。続けて「震災前の工場では、近くで畑も管理していました。漬物用の野菜を育てていたのですよ。原料から加工まですべてにこだわった漬物も大変人気でした。いつの日か、あの頃のように畑づくりもしながら漬物の加工ができればいいですね」と今後の夢を語ります。

大原工場では、個人でも団体でも工場見学を受け入れています。「多くの方々に醤油ができるまでの工程を見ていただきたい」と吉田さん。見学を希望する場合は、「日程調整などもありますので、本社※までお問い合わせください」とのことです。※上記基本情報参照

さらに同社では、震災当時の様子なども後世に伝えるべくホームページにて綴り、メディアや講演などを通して復興までの軌跡を語り継いでいます。



せいまく 製麹工程を見学。醤油づくりには株式会社八木澤商店が発行している様々な工程があり数日かかります。「かわら版」には、地域情報も掲載中。



センターの ○○!



巨石調査ファイルNo.2 立石神社
(idea1月号掲載)

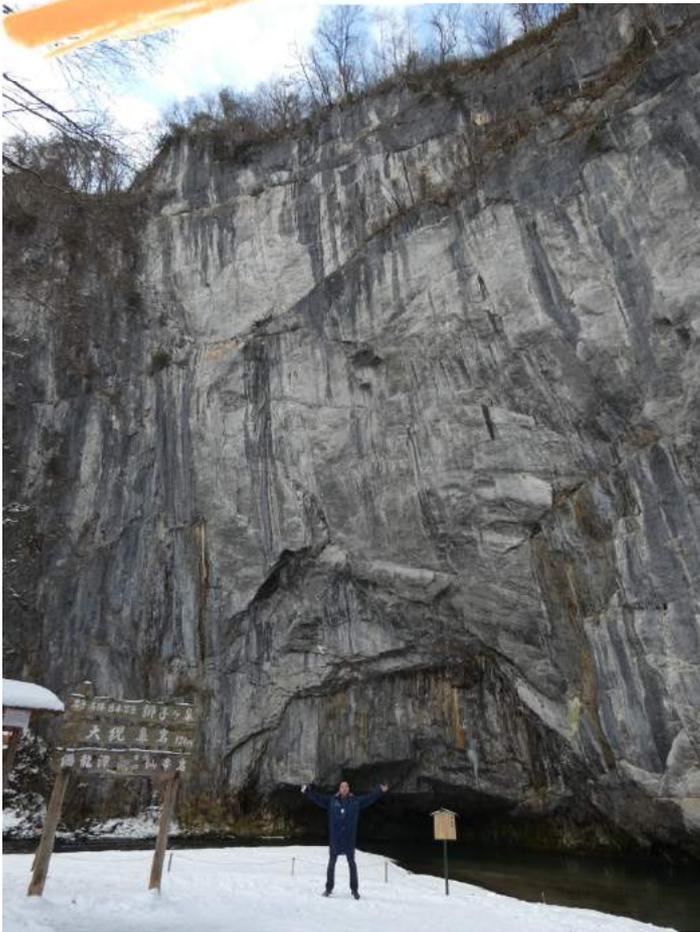
idea12月号と1月号に巨石を取り上げたところ、「狨鼻溪にある“大狨鼻岩”も大きい」という情報提供が！国の名勝として知られている狨鼻溪は、取材をした日も多くの観光客が訪れていました。そんな“大狨鼻岩”を今回はご紹介！

《巨石調査ファイルNo.3》

だいげいびがん

大狨鼻岩

住所：一関市東山町
長坂字町 467



大狨鼻岩とスタッフ(身長 175 cm)を比べてみました！

情報提供をしていただいたのは東山市民センター所長代理の鈴木勝市さん。ご厚意で案内役を引き受けて下さり、「いざ！大狨鼻岩へ！」。

大狨鼻岩までは舟下りでしか行けないということで、早速乗船。透き通った水に、優雅に泳ぐカルガモ。四季折々に姿を変えろという溪谷は、石灰岩が砂鉄川に侵食されてつくられたものといわれています。

舟が一番奥の岸に着き、歩いて約5分。今回情報をいただいた“大狨鼻岩”が姿を現しました！**高さ 124m、横幅 100m超**の大岩壁は、数々の奇岩怪岩がそびえ立つ中でひととき存在感を放ち、あまりの大きさに一瞬言葉を失うスタッフ…。周辺にはうっすらと雪が残り、溪谷の間から差す日差しが雪に反射し、幻想的な雰囲気を作り出しています。

“大狨鼻岩”を目に焼き付け、最後は船頭による舟唄を堪能し調査終了。今回も魅力たっぷりの巨石に出会うことができました。

そして！なんと！巨石情報をいただいたのは東山だけではありません！興田(大東)※からも情報提供をいただいています。果たしてどんな巨石が姿を現すのか！？巨石の旅はまだまだ続きます。

※興田(大東)の巨石は山の中にあるため、春以降、雪が溶けてから取材をする予定です。

石と岩の違いって？

巨石調査を進めていく中で「“巨石”といいながら今回の“大狨鼻岩”のように、名称に“岩”がついているものは巨石(=石)と
いわないのでは？」「人の力で動かせるのが石、人の力で動かせないのが岩」という意見がセンタースタッフの中からチラホラ…。そこで、改めて“石”と“岩”について調べてみると…『“石”と“岩”についての定義はなく、「なんとなく大きな石を岩」「岩より小さいのを石」という漠然としたイメージで区分している』と文献には書かれていました。

諸説あると思いますが、この文献を踏まえ、センターの独自調査においては今後も「名称に“岩”がついていても“巨石”として扱う」こととして調査を進めていきたいと思っています。

<参考文献>諏訪兼位(2018)『岩石はどうしてできたか』岩波書店、西川有司(2018)『おもしろサイエンス 岩石の科学』日刊工業新聞社。

おしらせ

募集

平成31年度 集落参観日 受け入れ集落募集

主催：いちのせき市民活動センター

「集落参観日」とは、地域づくり活動のマンネリ化や、地域の抱える課題解決のために、「地域外の視点を取り入れたいという集落」と「市内のローカルな魅力に興味のある人(集落以外の方)」などをマッチングし、地域の魅力や課題解決のヒントを作り出す企画です。現在、平成31年度の受け入れ集落(先着1集落)を大募集しています。

【募集締切】平成31年4月30日(火)
【注意事項】応募に関して、受け入れ集落の要件があるため当センターまで要問い合わせ
【問合せ】0191-26-6400

サロン

華カフェ

主催：高齢者グループホーム いこいの華

一人暮らしなので寂しい、普段考えていることを話したいという方、認知症予防に関心がある方などが集まり気軽に話し合う、認知症カフェ「華カフェ」を開催します。事前予約なしで、ご本人、ご家族の方などなたでもご参加できます。

【日時】平成31年3月14日(木)10時～12時
【場所】グループホーム いこいの華
(住所：一関市花泉町花泉字地平21-8)
【料金】200円(お茶・お菓子代込み)
【問合せ】0191-48-3511

映画上映

ドキュメンタリー映画 「おだやかな革命」

主催：一関地球温暖化対策地域協議会

自然エネルギーによる地域再生をテーマにした物語。過疎化や高齢化などの課題を抱えた地域で、これからの暮らしを自分たちの手でつくり直し、本当の豊かさを取り戻していく人々の姿を描いています。

【日時】平成31年3月10日(日)上映10時～
【場所】一関シネプラザ(電話：0191-23-2902)
(住所：一関市警井町2-13)
【チケット】一般 前売り1,000円/当日1,300円
学生 前売り800円/当日1,000円
【問合せ】0191-21-8344
(協議会事務局/一関市市民環境部生活環境課内)

講演

東日本大震災 講演会

主催：関が丘市民センター

大震災発生から8年、「語られなかった震災の実情と復興の難しさそして住田町の決断」を演題に講演会を行います。講師の木下繁喜さんは大船渡市出身で、震災で津波に追われ家や家財を失いました。その後、全国各地で震災の体験や教訓を語り伝える活動を行っています。

【日時】平成31年3月10日(日)10時30分～12時
【場所】関が丘市民センター体育室
【料金】無料
【問合せ】0191-21-2150

名称変更

4月から「スポーツ吹き矢」の団体名称が変わります

NPO法人グッジョブクラブ

当法人で教室を開催している「スポーツ吹き矢」の団体名称が、平成31年4月から「スポーツウェルネス吹き矢」に変わります。

心身の健康のみならず、生活の質の向上や生きがいの創造など、多面的な健康観であるウェルネス(健康)を追及するという決意を込めて名称変更することにしました。

【問合せ】090-9749-0929
(NPO法人グッジョブクラブ 萩田)

ショー

春休み！チャーリー西村 びっくりサイエンス SHOW

主催：NPO法人一関文化会議所

チャーリー西村さんは米村でんじろう先生の一番弟子で、照明・映像・音響を生かしたサイエンスショーを国内外で数多く公演しています。ふしぎで愉快な科学のエンターテインメントをぜひ親子でお楽しみください。

【日時】平成31年3月23日(土)
13時15分開場 14時開演
【場所】一関文化センターホール
【チケット】おとな1,300円/当日1,500円
3歳～中学生700円/当日800円
【問合せ】0191-21-2121(一関文化センター)

施設見学

磐乃井酒造 酒蔵見学

主催：磐乃井酒造株式会社

磐乃井酒造株式会社では酒蔵見学を随時承っております。時間は10時～16時の間で、見学にかかる所要時間は約40分です。おひとり様から見学可能です。事前にご予約をお願いします。

【時期】通年
(年末年始、ゴールデンウィーク、お盆はお休み)
【場所】磐乃井酒造株式会社
(住所：花泉町涌津字館72)
【料金】無料
【問合せ】0191-82-2100

紹介

地域づくり活動のお助け本「+NOTE」(タスノート)

いちのせき市民活動センター

「+NOTE」は、地域づくりに取り組む皆さまの一助にさせていただこうと、地域づくり活動に必要な基本的な知識から、いちのせき市民活動センターのスタッフ一人ひとりがつまみハウをぎゅっと凝縮した本です。地域づくり概論から始まり、地域協働の進め方、話し合いの仕方など全7章で構成。皆さんのスキルに「プラス(+)」になり、時には「お【たす】け役」になりますよう、ぜひご活用ください。

【価格】一冊1,000円(税込)
【問合せ】0191-26-6400

子育て支援

花泉保育園 園庭開放&子育て相談

主催：認定こども園花泉保育園

花泉保育園の園庭「はなほ広場」は、地域のお子さんが自由に遊ぶことができるよう随時(月曜～土曜)開放しています。様々な遊具やトランポリン、池などがあります。また、保育教諭・看護師・助産師・栄養士が子育てのお悩みをお聞きする「子育て相談」も行っています。どなたでもお気軽にご利用ください。

【場所】認定こども園花泉保育園
(住所：一関市花泉町花泉字田東93)
【問合せ】0191-82-2167

今月の表紙



「一関市・大東大原水かけ祭り」は「天下の奇祭」として有名ですが、地元で有名なものももう一つ。それが村惣菓子店の水掛酒まんじゅう。冷え切った体を温めてくれるような優しい甘さのまんじゅうは「天下一品」です。

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q NPO法人が登記手続きを行わなければならないのはどんな時？

A 以下の①～⑥の場合は、法務局への登記手続きが必要になります。
①NPO法人を設立する時 ②名称・目的及び業務等を変更する場合
③役員を変更する場合(兼任の場合、住所氏名の変更の場合を含む)
④他のNPO法人と合併する場合 ⑤法人を解散する場合
⑥事務所を移転する場合

